

令和元年度
福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の
点検・評価報告書

令和2年8月

福井県教育委員会

— 目 次 —

I	はじめに	1
II	点検・評価について	2
III	組織および決算	
1	組織	3
2	課別決算額調	4
IV	令和元年度福井県教育委員会の活動状況	
1	教育委員会の会議開催等の状況	5
2	教育委員の活動状況	9
3	審議会等審議状況	11
4	教育委員会関係の許認可の状況	11
5	県立学校入学者選抜学力検査結果の状況	13
6	令和元年度実施 令和2年度公立学校教員採用選考試験の実施状況	15
V	令和元年度の教育関係施策の取組実績	
1	令和元年度の主な取組みについて	18
2	主要施策成果報告	19
VI	有識者からの意見	36

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）に基づき、平成20年度から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理および執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。

[参 考]

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

本報告書「令和元年度 福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書」（以下「点検・評価報告書」という。）は、地教行法の規定に基づき、より効果的な教育行政の推進と県民の皆様に対する説明責任を果たすため、福井県教育振興基本計画に掲げた施策の実施結果を示すとともに、教育委員会の各種活動状況について点検・評価した結果を取りまとめたものです。

有識者の方に内容のご確認をいただき、その意見を併せて掲載しています。

本報告書により県民の皆様から、県の教育行政についてのご意見やご要望をいただき、今後の新たな教育関連施策に活かしていきたいと考えています。

Ⅱ 点検・評価について

1 対象期間

令和元年度（平成31年4月～令和2年3月）

2 点検・評価方法

(1) 点検・評価報告書の作成

- ・ 教育委員会において点検・評価報告書案を作成

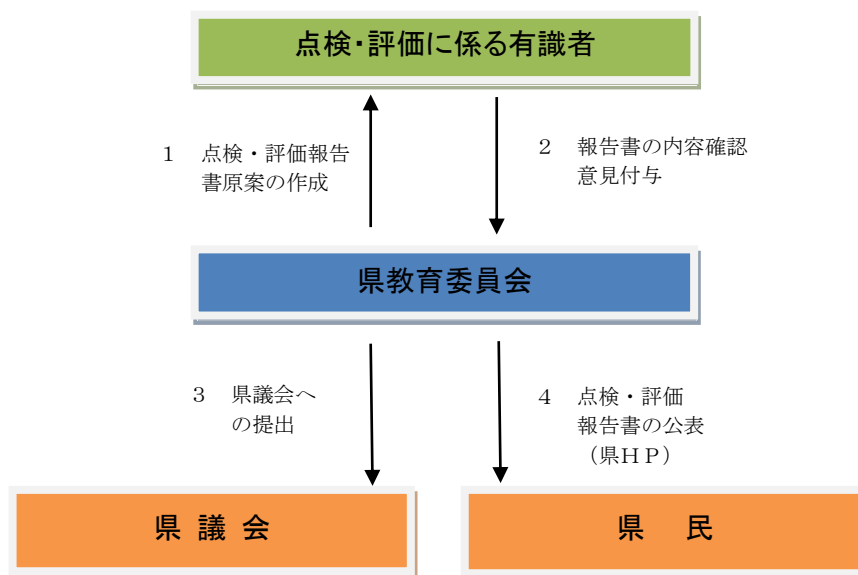
(2) 点検・評価報告書の確認、審査

- ・ 有識者による点検・評価報告書案の内容の確認および審査

(3) 点検・評価結果の公表

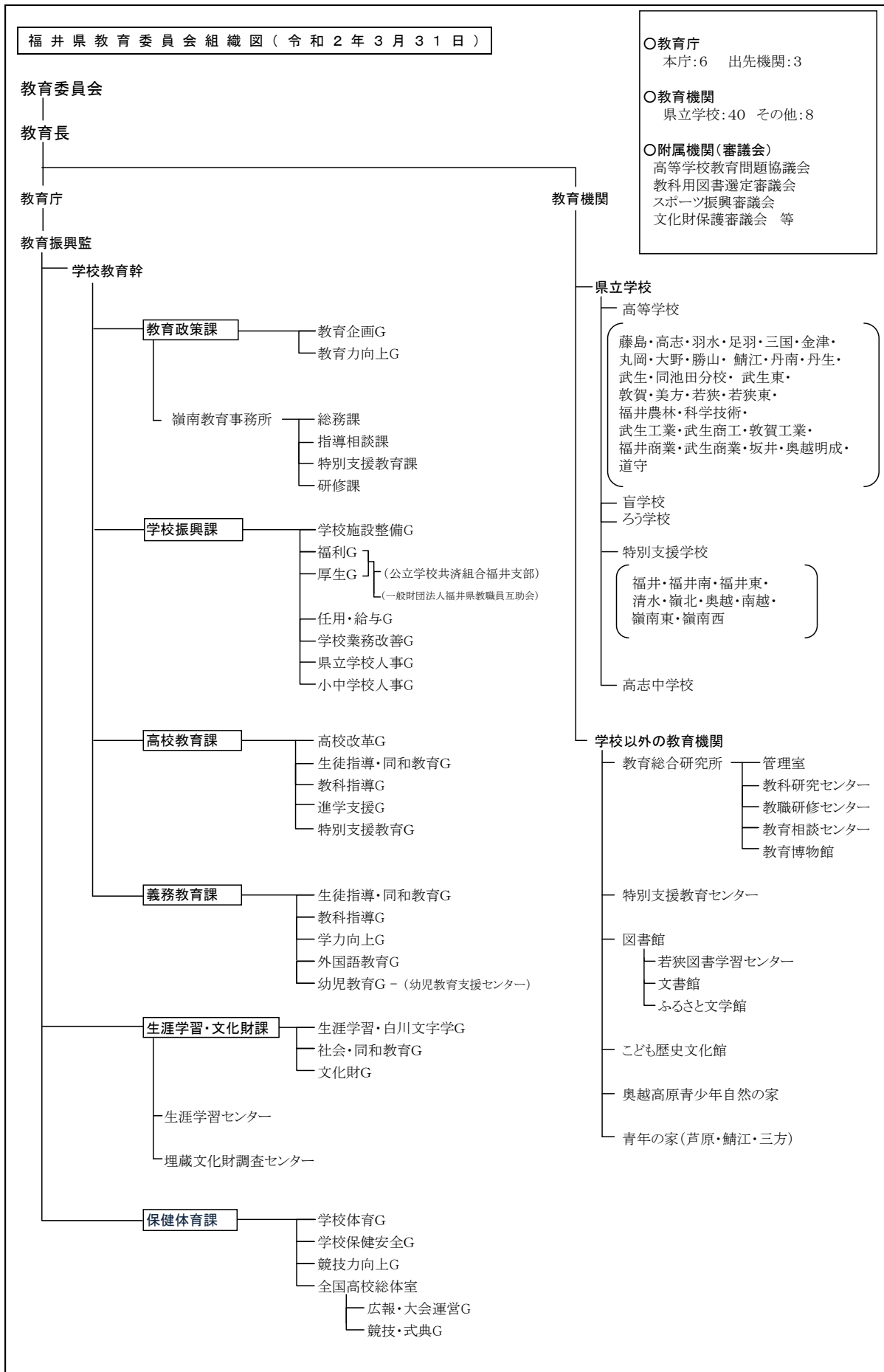
- ・ 点検・評価報告書を県議会に提出するとともに、県のホームページにおいて公表

〔点検・評価フロー〕



III 組織および決算

1 組織



2 課別決算額調

(一般会計)

(1) 歳入

(単位:千円、%)

課名等	予算現額A	調定額B	収入済額C	(不納欠損額) 収入未済額	C/A	C/B
教育政策課	1,248,333	561,339	561,339	0	45.0	100.0
教職員課	15,397,285	15,360,032	15,358,098	(1,769) 165	99.7	99.9
高校教育課	198,667	165,858	143,722	22,136	72.3	86.7
義務教育課	162,175	157,727	157,727	0	97.3	100.0
生涯学習・文化財課	206,896	203,860	203,859	1	98.5	100.0
保健体育課	32,983	32,504	32,504	0	98.5	100.0
計	17,246,339	16,481,320	16,457,249	(1,769) 22,302	95.4	99.9

(2) 歳出

(単位:千円、%)

課名等	予算現額A	支出済額B	翌年度繰越額C	不用額	B/A
教育政策課	8,016,068	6,317,167	818,166	880,735	78.8
教職員課	70,330,027	69,932,243	0	397,784	99.4
高校教育課	488,414	388,808	0	99,606	79.6
義務教育課	1,364,250	1,316,302	0	47,948	96.5
生涯学習・文化財課	1,035,402	1,006,606	3,087	25,709	97.2
保健体育課	1,097,996	1,031,270	0	66,726	93.9
計	82,332,157	79,992,396	821,253	1,518,508	97.2

※ 計で四捨五入になるよう端数調整

IV 令和元年度福井県教育委員会の活動状況

1 教育委員会の会議開催等の状況

(1) 福井県教育委員会委員

(平成31年4月1日～令和元年7月31日)

	氏名	職業
教育長	東村 健治	
委員（教育長職務代理者）	吉井 正雄	医師
委員	西野 里佳	元PTA役員
委員	南部 隆保	会社役員
委員	原 公樹	僧侶
委員	山本 直子	法人役員

(令和元年8月1日～令和元年10月12日)

	氏名	職業
教育長	豊北 欽一	
委員（教育長職務代理者）	吉井 正雄	医師
委員	西野 里佳	元PTA役員
委員	南部 隆保	会社役員
委員	原 公樹	僧侶
委員	山本 直子	法人役員

(令和元年10月13日～令和2年3月31日)

	氏名	職業
教育長	豊北 欽一	
委員（教育長職務代理者）	西野 里佳	元PTA役員
委員	南部 隆保	会社役員
委員	原 公樹	僧侶
委員	山本 直子	法人役員
委員	森下 典子	元教員

(2) 教育委員会会議の開催状況

- ・ 開催回数 15回
- ・ 附議事項 68件

○第1097回（平成31年4月26日（金））

- ・ 平成32年度福井県公立学校教員採用選考試験について
- ・ 福井県立高等学校の授業料の減免等に関する規則の一部改正について
- ・ 福井県奨学育英基金管理規則の一部改正について
- ・ 福井県教科用図書選定審議会委員の任命について
- ・ 福井県心身障害児就学指導委員会委員の委嘱について

○第1098回（令和元年5月20日（月））

- ・ 教職員の懲戒処分について

○第1099回（令和元年5月27日（月））

- ・ 令和2年度福井県立高志中学校入学者選抜における選抜方法の変更について
- ・ 福井県スポーツ推進審議会委員の任命について
- ・ 令和元年6月1日付け機構改革（教育委員会関係）および教職員以外の参事級以上の職員の人事異動について
- ・ 令和元年6月1日付け機構改革に伴う福井県教育委員会規則等の一部改正について
- ・ 福井県教育委員会の権限に属する事務の委任等に関する規則等の一部改正について

○第1100回（令和元年6月24日（月））

- ・ 令和元年度福井県立高等学校後期編入学者選抜実施要項（定時制の課程および通信制の課程）の制定について
- ・ 令和2年度使用義務教育諸学校教科用図書採択についての基準、選定資料および採択目録の決定について
- ・ 福井県心身障害児就学指導委員会委員の委嘱について
- ・ 福井県立図書館使用料徴収条例等の一部改正について

○第1101回（令和元年7月24日（水））

- ・ 令和2年度福井県公立学校教員採用選考試験第1次選考合否の決定について
- ・ 令和元年8月1日付け教育庁および学校以外の教育機関の管理職の人事異動について
- ・ 教育長辞職の同意について

○第1102回（令和元年8月26日（月））

- ・令和2年度福井県立高志中学校入学者選抜に関する実施要項の制定について
- ・令和2年度福井県立高等学校入学者選抜における推薦入学者選抜の実施校について
- ・令和2年度福井県立高等学校入学者選抜における特色選抜の実施校および実施種目について
- ・令和2年度福井県立高等学校入学者選抜における一般入学者選抜の英検加点級について
- ・福井県立学校設置条例等の一部改正について
- ・令和2年度使用県立高等学校、県立特別支援学校高等部および県立中学校の教科用図書の採択について
- ・平成30年度教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書について
- ・教職員免許に関する規則の一部改正について

○第1103回（令和元年9月26日（木））

- ・福井県教育委員会行政組織規則および福井県立学校の管理運営に関する規則の一部改正について
- ・令和元年度教育功労者表彰の被表彰者の決定について
- ・令和2年度福井県公立学校教員採用選考試験の採用内定者の決定について

○第1104回（令和元年10月24日（木））

- ・令和2年度福井県立学校入学者募集定員について
- ・令和2年度福井県立高等学校入学者選抜実施要項ならびに福井県立特別支援学校の幼稚部および高等部の入学者選考実施要項の制定について
- ・福井県高等学校教育問題協議会委員の任命について
- ・令和元年11月1日付け人事異動について

○第1105回（令和元年11月20日（水））

- ・福井県教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部改正について
- ・令和2年度福井県公立学校校長・教頭任用選考試験の合格者の決定について
- ・令和2年度教職員人事異動方針について

○第1106回（令和元年12月19日（木））

- ・介護により早期退職した教職員の再採用試験の実施について
- ・令和元年度ふくい優秀教職員表彰被表彰者の決定について
- ・令和2年度福井県公立小・中学校事務職員採用試験および障がい者を対象とした福井県職員（小中学校事務）採用試験の採用内定者の決定について
- ・福井県朝倉氏遺跡研究協議会委員の委嘱について
- ・令和元年度福井県学校保健・学校安全・学校給食表彰被表彰者の決定について

○第1107回（令和元年12月24日（火））

- ・福井県教育委員会職員倫理規則の制定について

○第1108回（令和2年1月17日（金））

- ・再任用教職員の採用内定者の決定について
- ・令和2年度福井県立学校寄宿舎指導員・実習助手採用試験の採用内定者の決定について
- ・南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞受賞者の決定について
- ・授業名人の任命について

○第1109回（令和2年2月7日（金））

- ・福井県立学校職員定数条例の一部改正について
- ・市町立学校県費負担教職員定数条例の一部改正について
- ・福井県義務教育諸学校等の教育職員の給与等の特別措置に関する条例の一部改正について
- ・福井県特別支援教育センター設置条例等の一部改正について
- ・図書館条例の改正について
- ・福井県立美術館運営協議会委員の任命について
- ・福井フューチャーマイスタートップ賞受賞者の決定について

○第1110回（令和2年3月5日（木））

- ・令和2年度公立小中学校校長・教頭および県立学校校長・教頭の人事異動について
- ・福井県教育委員会が行う義務教育諸学校等の教職員の適切な管理等に関する規則の制定について

○第1111回（令和2年3月23日（月））

- ・福井県教育振興基本計画の策定について
- ・福井県スポーツ推進計画の改定について
- ・第3次福井県子どもの読書活動推進計画の策定について
- ・福井県文化財保存活用大綱の策定について
- ・福井県奨学育英基金管理規則の一部改正について
- ・懲戒処分の指針の一部改正について
- ・福井県学校業務改善方針の改訂について
- ・福井県文化財保護審議会委員の任命について
- ・福井県銃砲刀剣類登録審査員の任命について
- ・令和2年4月1日付け教育庁および学校以外の教育機関の管理職の人事異動について
- ・福井県教育委員会行政組織規則等の一部改正について
- ・教職員の懲戒処分について
- ・教職員の懲戒処分について

2 教育委員の活動状況

時 期	活 動 内 容 (参加行事等)
平成31年	
4月 1日	新採用教職員辞令交付式
4月26日	第1097回教育委員会
令和元年	
5月13日	市町教育委員会連絡協議会総会
5月20日	第1098回教育委員会
5月27日	学校視察 (至民中学校)
5月27日	第1099回教育委員会
5月28日	学校視察 (武生西小学校)
6月 7日	県市町女性教育委員の会
6月10日	学校視察 (南越特別支援学校)
6月12日	学校視察 (福井商業高校、有終東小学校)
6月17日	学校視察 (県立盲学校)
6月18日	学校視察 (三国中学校)
6月20日	学校視察 (奥越明成高校)
6月24日	知事との意見交換会、第1100回教育委員会
7月8日、9日	全国都道府県教育委員会連合会令和元年度第1回総会
7月24日	第1101回教育委員会
7月26日、27日	インターハイ激励
8月 6日、7日 8日、9日	教員採用試験面接
8月26日	第1102回教育委員会
8月29日	総合教育会議、第7回ふくいの教育振興推進会議
9月26日	第1103回教育委員会
10月18日	教育委員会委員 辞令交付式
10月24日	第1104回教育委員会
10月25日	第1回福井県高等学校教育問題協議会
10月26日	若狭東高校創立100周年
10月29日	令和元年度 都道府県・指定都市教育委員研究協議会
10月29日、30日 31日	管理職任用選考試験面接
11月 1日	
11月 5日	教育功労表彰式、教育委員の会
11月 6日	管理職任用選考試験面接
11月 7日、8日	東海北陸ブロック教育委員全員協議会

11月13日	学校視察（高志高校）、美方高校創立50周年記念式典
11月15日	第8回ふくいの教育振興推進会議
11月19日	学校視察（丸岡高校）
11月20日	第1105回教育委員会
11月22日	学校視察（西津小学校）
11月28日	学校視察（若狭高校）
12月13日	学校視察（鯖江高校）
12月19日	第1106回教育委員会
12月24日	第1107回教育委員会、第2回福井県高等学校教育問題協議会
令和2年	
1月17日	第1108回教育委員会
1月27日	奥越地区高等学校教育懇談会 全国都道府県教育委員会連合会令和元年度第2回総会
1月29日	第9回ふくいの教育振興推進会議 令和元年度ふくい優秀教職員表彰式
1月30日	二州地区高等学校教育懇談会
2月 3日	坂井地区高等学校教育懇談会
2月 7日	第1109回教育委員会
2月10日	福井地区高等学校教育懇談会
2月12日	授業名人任命式
3月 5日	第1110回教育委員会
3月14日	武生高校池田分校閉校式
3月23日	第1111回教育委員会
3月31日	永年勤続退職教職員辞令交付式・表彰式

※ 教育長単独での活動の記載は省略してあります。

3 審議会等審議状況

名 称	委員数	会議開催数	件 名	種 別	年月日
福井県心身障害児就学指導委員会	20	3	県立特別支援学校の該当児判断について	審議	元. 6. 14 元. 9. 13 元. 12. 11
福井県教科用図書選定審議会	19	3	義務教育諸学校で使用する教科用図書について	審議・答申	31. 4. 26 元. 5. 31 元. 6. 11
福井県文化財保護審議会	15	4	県指定文化財について 文化財保存活用大綱について	審議・諮問・協議	元. 6. 7 元. 7. 30 元. 11. 1 元. 12. 25

4 教育委員会関係の許認可の状況

(1) 教育職員免許状の授与等（令和元年度）

区分	専修免許状	1種免許状	2種免許状	特別免許状	臨時免許状	合 計
小学校	36	121	14	0	35	206
中学校	46	131	9	1	3	190
高等学校	71	190	0	3	44	308
特別支援学校	2	27	45	0	15	89
幼稚園	7	84	142	0	3	236
養護教員	0	6	4	0	6	16
栄養教員	0	1	0	0	0	1
自立教科等	0	0	0	0	0	0
合 計	162	560	214	4	106	1046

(2) 文化財の指定状況

令和元年度においては、新たに国重要文化財 1 件が指定されました。

< 指定文化財の現状 >

令和 2 年 3 月 31 日現在

区 分		国指定		国選定	国選択	国登録	県指定
		国 宝 特 別	重 文 国指定				
有 形 文化財	建造物	2	28			193	28
	絵 画		14				75
	彫 刻		35				80
	工芸品	3	8			1	28
	書跡・典籍・古文書	1	14				21
	考古資料		5				16
	歴史資料		3				6
	計	6	107			194	254
無 形 文化財	芸 能						
	工芸技術		2				4
	計		2				4
民 俗 文化財	有形民俗文化財		1			1	9
	無形民俗文化財		5		12		65
	計		6		12	1	74
史跡・名勝・ 天然記念物	史 跡	1	24				29
	名 勝	1	14			2	7
	天然記念物	4	17			1	33
	名勝天然記念物		1				
	計	6	56			3	69
重要伝統的建造物群保存地区				2			
選定保存技術							
合 計		12	171	2	12	198	401
		183					

(3) 銃砲刀剣類の登録状況

銃砲刀剣類所持等取締法に基づき、審査会を開催し、登録証の交付等をおこなってまいりました。

登録証交付	43	件
登録証再交付	10	件
所有者変更	238	件

(4) 教育委員会所管の公益法人

23法人（令和2年3月31日現在）

新制度移行法人（公益財団法人12 公益社団法人2 一般財団法人8
一般社団法人1）

5 令和2年度県立学校入学者選抜学力検査結果の状況

(1) 県立高等学校

推薦入学、連携型中高一貫教育校入学者選抜、第1次学力検査および第2次学力検査の課程別の合格者数は、表1のとおりです。また、全日制の第1次の学力検査合格者3,592人（前年度3,868人）に関する教科別の平均点は、表2のとおりです。

表1 課程別の合格者数

※（ ）内は前年度実績

	全 日 制	定 時 制	合 計
推薦入学によるもの	515(544)		515 (544)
特色選抜によるもの	238 (226)		238 (226)
連携型中高一貫教育校入学者選抜によるもの	68(88)		68(88)
1次学力検査によるもの	3,592(3,868)	163(168)	3,755(4,036)
2次学力検査によるもの	11(18)	28(13)	39(31)
計	4,424(4,744)	191(181)	4,615(4,925)
充足率	92.5%(97.9%)	54.6%(51.7%)	89.9%(94.8%)

<参 考>

募集定員	4,784(4,845)	350(350)	5,134(5,195)
------	--------------	----------	--------------

表 2 教科別の平均点

	選択問題 A	選択問題 B
英 語	43.3(40.4)	71.8(63.9)
数 学	46.0(50.4)	59.0(69.8)
	共通	
国 語	60.4(57.1)	
社 会	54.8(57.4)	
理 科	51.7(49.9)	
総 点	206.5(210.5)	319.7 (322.5)

※英語および数学は大問 4～6 問のうち 1～2 問を次の 2 種類の選択問題として実施
 A：基礎力を問う設問の割合が多い問題（選択した合格者 1,100 人）
 B：記述・論述型の設問の割合が多い問題（選択した合格者 2,491 人）
 ※英語の平均点には実用英語検定試験取得による加点は含まれていない。

(2) 県立中学校

平成 27 年度に開学した高志中学校の入学者選抜の受験の状況は、表 3 のとおりです。また、適性検査等の結果は表 4 のとおりです。

表 3 受験の状況

募集定員	出願者数	受験者数	合格者数
90	330	329	90

表 4 適性検査等の結果

	配 点	平均点
適性検査 I	100	56.6
適性検査 II	100	30.7
適性検査 III	100	45.5
面 接	50	35.8
合 計	350	168.7

6 令和元年度実施 令和2年度公立学校教員採用選考試験の実施状況

第1次選考試験

試験期日および場所

期 日 等	場 所
令和元年7月13日(土) 一般教養・教職専門・教科等専門(小学校、 中学技術、高等学校各教科、養護教諭、栄 養教諭)	福井県立藤島高等学校 (福井市文京2丁目8-30) 【小学校実技(水泳)・中高音楽実技】
令和元年7月14日(日) 教科等専門(中高一括で行う教科、特別支 援学校)	福井市春山小学校 (福井市文京3丁目13-1)

第2次選考試験

試験期日および場所

期 日 等	場 所
令和元年8月5日(月) 適性検査、小論文 令和2年度大学院特別選考 適性検査、個人面接 スポーツ・芸術特別選考 適性検査、小論文、個人面接 教育エキスパート特別選考 小論文、個人面接	福井県立藤島高等学校 (福井市文京2丁目8-30)
令和元年8月6日(火)～9日(金) 個人面接、集団討論	

《 教員採用試験の改善について 》

優秀な人材の確保および選考過程の透明性・公平性を図るため、次のような改善を行いました。

○ 優秀な人材の確保

＜平成18年度から実施＞

- ・受験資格を60歳未満に拡大
- ・講師経験者の1次選考免除を導入

＜平成19年度から実施＞

- ・2次選考において、場面指導を導入
- ・国際貢献活動経験者の1次選考免除を導入

<平成20年度から実施>

- ・大学院修士課程修了時の特別選考を導入

<平成21年度から実施>

- ・面接の重視（配点割合の引き上げ）
- ・「音楽」「美術」を含む全教科での筆記試験の実施

<平成23年度から実施>

- ・スポーツ特別選考の実施

<平成25年度から実施>

- ・従来の一括募集を校種・教科別の募集に変更
- ・2つの校種・教科を併願できるように変更
- ・校種・教科の専門試験を1次選考で実施（全ての受験者が専門試験を受験）
- ・2次選考の「場面指導」を「集団討論」に変更
- ・面接の重視（配点割合の引き上げ）

<平成27年度から実施>

- ・特別選考の導入①スポーツ・芸術特別選考
②教育エキスパート特別選考
③グローバル教育特別選考

<平成28年度から実施>

- ・特別選考の見直し①スポーツ・芸術特別選考
②教育エキスパート特別選考
専門教育分野
英語教育分野

<令和元年度から実施>

- ・障がい者特別選考の受験資格拡大
- ・介護を理由に退職した教員の再採用を実施

○ 受験者に対する情報の提供

<平成20年度から実施>

- ・2次選考の不合格者に対して、成績をA、B、Cの三段階で通知
- ・試験問題の持ち帰りと、解答例・配点の公表（自己採点可能）の実施
- ・個人情報開示請求に基づき、以下の情報を開示
1次選考および2次選考における筆記試験、実技試験、作文および面接の点数
- ・筆記試験、実技試験、作文および面接の配点ならびに評価項目など選考基準をホームページで公開
- ・1次選考合格者および最終合格者について、可否結果通知の発送に併せて、ホームページでも受験番号を公表

<平成21年度から実施>

- ・判定基準をホームページで事前発表
- ・解答例および設問別配点をホームページに掲載（自己採点可能）
- ・不合格者のうち希望者に、筆記試験、実技試験、作文および面接の各点数なら

- びに合計点数を通知
- <平成26年度から実施>
- ・不合格者全員に筆記試験、実技試験、作文および面接の各点数ならびに合計点数を通知

○ 選考過程等の改善

- <平成20年度から実施>
- ・改ざん等の不正防止のため、担当部署以外の行政職員による答案や面接時の個票と選考資料との突き合わせ点検を実施
 - ・民間有識者による選考手順や選考内容の点検および抽出データによる答案等の元データと選考資料データの突合を実施
- <平成21年度から実施>
- ・実技試験において、受験番号にかわり整理番号を使用
- <平成24年度から実施>
- ・電子申請による受付を導入
- <平成26年度から実施>
- ・一般教養試験において、マークシート方式を導入
- <平成27年度から実施>
- ・小学校筆記試験において、外国語のリスニングテストを導入
 - ・一般教養に加え、教職専門の試験において、マークシート方式を導入

V 令和元年度の教育関係施策の取組実績

1 令和元年度の主な取組みについて

- 本県の教育に関する施策の基本方針である「教育に関する大綱」に基づき、具体的な行動計画として「福井県教育振興基本計画」を令和2年3月に策定しました。
- 「福井県学校業務改善方針」（平成31年2月策定）に基づき、部活動指導員や学校運営支援員など外部人材の活用、部活動の休養日や学校閉庁日の設定等の取組みを進めることにより、教員の業務負担の軽減を図りました。
- 特別支援学校4棟の大規模改修工事を実施した他、高等学校7棟、特別支援学校2棟について、長寿命化の設計を実施するなど、県立学校において、生徒が集中して学べる学習環境の整備を進めました。
- 小・中学校への日本語指導員の配置や翻訳機などの整備を支援し、外国人児童生徒の教育の充実を図りました。
- すべての小・中学校で地域コーディネーターを委嘱することにより、地域が学校に関わる体制を整備し、児童生徒自らが企画する体験学習の充実を図りました。
- 職業系高校の生徒を対象とした民間企業技術者による技術指導の実施や、生徒の専門資格取得を支援することにより、職業系高校3年生の87%を福井フューチャーマイスターとして認定し、企業の即戦力となる人材の育成を図りました。
- 令和3年度に本県を中心に北信越ブロックで開催予定の全国高等学校総合体育大会に向け、令和元年10月に福井県実行委員会を設立し、競技運営や総合開会式、高校生活動、広報報道、輸送警備など検討項目ごとに専門部会を立ち上げ、業務運営の基本方針を定めました。

2 主要施策成果報告

(1) 教育振興基本計画（平成 27 年 12 月策定）に基づく施策の実施結果

方針1:ふるさと福井に誇りと愛着を持ち将来の福井を考える人を育てる「ふくい創生教育」の推進

〔令和元年度の実施結果〕

- ふるさとの先人 100 人の生き方から学ぶ副教材を中学校・高校で活用
 - ・ 3 月に先人 5 人を追加した改訂版を中学 1 年生に配付し、道徳の授業や HR において活用（明智光秀、かこさとし、東条義門、住友政友、平瀬作五郎）
- 福井ゆかりの百人一首等を題材とした古典音読・暗唱教材を授業に活用
 - ・ 全小・中学校に配付し、国語等の授業において活用
- 普通科系高校 1 年生が県内企業を訪問し、その魅力を知る機会を新設
 - ・ 県内企業 63 社の協力を得て実施。高校 1 年生約 720 名が参加
- 都会の生活と比較して福井の魅力を学ぶ副教材を活用したライフプラン学習を開始
 - ・ 高校に教材を配付し、家庭科の授業において活用
- 地域人材コーディネート体制を整え、児童・生徒が自ら企画・提案する体験学習を実施
 - ・ 小・中学校 226 校において、地域コーディネーターを委嘱し活動を実施
- 本県ゆかりの企業経営者など「ふるさと先生」による特別授業を高校 24 校で実施
- 小・中学校で行っている地域と進める体験事業の取組みをまとめ、県内全小・中学校、図書館等に発信
 - ・ 10 月から 2 月まで毎月リーフレットを発行
- 各小・中学校で実施しているふるさと教育の活動成果を発表する「福井ふるさと教育フェスタ」を開催
 - ・ 小学校 7 校、伝統芸能 2 団体がステージ発表し、小・中学校 42 校がパネル展示。418 名が参加

方針2:夢や希望を実現する「突破力」を身に付ける教育の推進

〔令和元年度の実施結果〕

- 中学 3 年生の英語・数学について習熟度別学習を実施
 - ・ 中学校 26 校（英語 16 校・数学 10 校）において習熟度別学習を実施
- 「ふくい理数グランプリ」および「理数ゼミ」を実施し、科学的な思考力・表現力を育成
 - ・ 「ふくい理数グランプリ」に小・中・高校生 2,350 人が参加。成績優秀者約 159 人が少人数の「理数ゼミ」に参加。高校生部門には 532 チーム 1,570 人が参加。
- 入試において、高校ごとの選択問題や外国人生徒等特別選抜の導入などを実施
 - ・ 記述問題の拡充、選択問題の導入および英検による加点を実施し、平成 29 年度実施の高校入試から反映。外国人生徒等特別選抜は令和 2 年度高等学校入学者選抜から実施
- 大学進学サポートセンターを設置し、既卒生に対する学習指導や進学相談を実施
 - ・ 78 名が登録し、毎日 20～30 名が利用。教科ごとの定期的な学習会を実施

- 本県独自のカリキュラムに基づく保幼小接続を県内全域で実施
 - ・市町幼児教育アドバイザー30名、園内リーダー92名を養成
 - ・12月にフォーラムを開催し、市町幼児教育アドバイザー養成研修後の実践事例を発表。県内外から約570名が参加
- 県内高校の課題解決型学習を支援
 - ・モデル校6校を指定し、課題解決型学習を実践。2月に報告会を開催し、活動結果を共有

方針3:社会への参加を進め、高度な専門知識・技能を身に付ける教育の推進

〔令和元年度の実施結果〕

- 高校生が選挙や政治の仕組みを学ぶため、副教材を活用した学習を充実
 - ・全県立学校において生徒向け講座や模擬選挙、討論型の授業など実践的な学習を実施
- 職業系高校生の資格取得を支援する「福井フューチャーマイスター制度」を実施
 - ・職業系高校生の8割以上となる約1,724名を認定
- プログラミングの楽しさやモノづくりの魅力を伝えるため、工業高校生が小学校でプログラミングの出前授業を実施

方針4:グローバルな社会で活躍するための「使える」外国語教育の推進

〔令和元年度の実施結果〕

- 中学生・高校生の外国語の外部検定受験を支援するとともに、スピーキングおよびライティングのパフォーマンステストによる評価を実施
 - ・ほぼすべての中学校と、約6割の高校で定期試験等に合わせてパフォーマンステストによる評価を実施
 - ・中学3年生の約9割となる6,609名、高校1,2年生の約3割となる4,481名の英検、GTEC等の受験を支援
 - ・中学3年生の61%がCEFR A1レベル（英検3級）相当以上、高校3年生の58%がCEFR A2レベル（英検準2級）相当以上の英語力
- 中学校・高校で、英語副教材を配布
 - ・中学校では、新学習指導要領の全面実施を見据えた言語活動充実のための長文教材「OPINION」を、全中学生に配布
 - ・高校では、「福 English」（普通科用）、「WORD ORDER DRILLS」（職業系高校用）を高校1年生に配布
- 中学校・高校で、学校数を上回る数のALTを確保し、交流機会の充実を継続
 - ・中学校では、中学校1,2年生で週1.5時間、3年生で週1時間のチームティーチングを実施
 - ・高校では、国際関連の学科や探究科のある学校に複数配置し、グローバル化に対応した教育を充実
- 小学校で、教科化に向けた英語教育の先行実施
 - ・高学年で週2時間、中学年で週1時間の外国語活動を実施

- ・小学校の外国語教育担当教員を対象に教材活用研修を実施
- ・中学校配置 ALT の小学校訪問を推奨
- CEFR B2 レベル（英検準 1 級）以上を取得している高校教員は 94%、中学校教員は 60% に到達
- ふるさと納税寄付金を財源に、高校生の長期海外留学を支援
 - ・「福井県きぼう応援海外留学奨学金」を活用し、6 名の高校生が長期海外留学を実施

方針5:福井の教育を支える教員の指導力をさらに向上

〔令和元年度の実施結果〕

- 「福井県教員育成指標」に基づき、研修を充実・精選・効率化
 - ・初任者研修で「ふるさと福井」の教育を充実
 - ・管理職研修で危機管理や民間の手法を取り入れた働き方改革の研修を充実
 - ・研修の一部を通信型研修に置き換え、研修を効率化
 - ・訪問型研修で多様なニーズに対応する支援を実施
- 若手教員が参加した自主研究グループを支援
 - ・授業力向上、指導力向上を目的に 100 グループが自主研究活動を実施
- 「福井県学校業務改善方針」に基づき、業務改善を推進
 - ・ノー残業デーや学校閉庁日の設定、好事例の紹介等を進め、令和元年度の時間外勤務月 80 時間超の教職員数が前年度と比較して 47.2%減
- 福井県学力調査（SASA）の採点およびデータ処理業務を外部委託し、教員負担の軽減や結果分析までの期間短縮を実現
- 実績ある退職教員等の活用を促進
 - ・小学校における外国語活動の支援や理科の支援、中学校や高校における放課後の補充学習指導等を実施。退職教員等 230 名をシニアティーチャーとして活用

方針6:安全・安心でみんなが楽しく学ぶ学校づくりの推進

〔令和元年度の実施結果〕

- いじめ・不登校対策として、専門的な教育相談体制を拡充
 - ・弁護士による、インターネット上のいじめについて考える授業や学校を対象とした相談会を実施
 - ・スクールカウンセラーを 2 名、スクールソーシャルワーカーを 3 名増配置し、小学校への学校訪問体制を拡充
- 特別支援学校生徒の職場実習等に協力する「就労サポーター企業」の登録・活用
 - ・サポーター企業に 259 社が登録し、実習受け入れや技術指導に協力
- 特別支援学校生徒の就業スキルの向上および新たな就業先の開拓のため、校外の農業法人等での農業体験実習を実施
- ふくい在地産学校給食推進事業により、地場産食材を使用した和食給食などの提供とそれらを教材とした食に関する指導を実施

- ・全ての小・中学校において年3回取り組み、栄養教諭、担任による食育指導を充実

方針7:児童・生徒数の減少や社会の変化に対応した学校・学科の整備

〔令和元年度の実施結果〕

- 武生高校探究進学科、鯖江高校探究科、敦賀高校文理進学科の令和2年度入学の募集を開始
- 武生商工高校の校名、校旗等を決定
- 武生商工高校の令和2年度入学の募集を開始
- 武生商業高校、武生工業高校、丹南高校の令和2年度入学の募集を停止
- 高等学校教育問題協議会を設置し、「今後の県立高等学校の魅力化の方策について」を諮問

方針8:生涯にわたる学びを地域活動につなげる仕組みづくりの推進

〔令和元年度の実施結果〕

- 福井ライフ・アカデミーで実践型講座を開催し、地域貢献につながる学びを促進
・「ふるさと力」サポート講座を4期開講（187名が参加）
- 家庭教育パンフレット（インターネットの適正利用、いじめ防止、生活習慣）を作成し、保護者会等において普及
- PTAと連携した保護者向け家庭教育支援講座を開催し、保護者869名が参加
・子どもの読書の重要性や食生活、生活習慣の確立をテーマに県内5地区で実施

方針9:地域への愛着を深める芸術・文化活動や創作活動の充実

〔令和元年度の実施結果〕

- 弦楽クラブ参加者を増やすとともに、児童生徒が本物の芸術に触れる機会を拡充
・小・中・高校の15校において弦楽活動を推進
・五嶋みどり氏など一流の演奏家による研修会、合同練習や発表の機会を拡充
- 小・中・高校において日本画を活用した美術の授業を実施
・東京藝術大学と連携し、同大学院生による中・高生への日本画指導や出前授業を実施
- 小学生の親子図書館見学会など読書普及を充実
・ゴールデンウィークや夏休み期間に図書館、文学館や文書館を見学する「図書館探検隊」を実施
- 県内の読書を取り巻く状況の変化や課題に対応するため「第3次福井県子どもの読書活動推進計画」を策定
- 地域の建造物等の指定を推進
・永平寺19棟（永平寺町）が国重要文化財に指定
・大音家文書（若狭町）の国重要文化財の指定および青木蘭麿堂（福井市）、信洋舎製紙所（越前市）など16件の国登録有形文化財の登録について、文化審議会から文部科学大臣に答申

- 丸岡城の国宝指定を促進
 - ・丸岡城天守の建築年代等を調査した報告書を文化庁に提出。国宝指定の早期実現を国へ要望
- 県や市町、県民など、地域全体で連携・協力しながら文化財の保存・活用に取り組む共通の方針として、「福井県文化財保存活用大綱」を策定

方針10:「福井しあわせ元気国体」の優勝を目指した競技力向上と国体の成果を活かした県民スポーツの振興

〔令和元年度の実施結果〕

- 長期的な視点で選手確保、育成・強化サイクルを形成するため、有望なジュニア選手を発掘・育成
 - ・専用機器を用いたスポーツ能力測定会と競技体験会を開催（3回）
 - ・トップアスリートを目指す子どもを対象に育成プログラムを提供（受講者29名）
 - ・競技団体による中学生県選抜チームを結成
- 「スポジョブふくい」を継続し、UIターン就職での有力選手を確保
 - ・「スポジョブふくい」で有力選手が県内に就職（令和2年春就職30人）
- 福井国体の選手強化の過程で得た「経験、ノウハウ、人材」をレガシーとして継承・発展
 - ・ボート、ホッケー、体操に次ぐ「新たなお家芸競技」を市町と協働で育成（3競技）
 - ・企業の支援を得て自立を目指すクラブチームを支援（3競技）

(2) 主要事業の実施成果

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(1) 教育ICT環境整備事業				教育政策課	
[事業目的]	ICT機器を効果的に活用し授業の効率化を図るとともに、新学習指導要領や大学入試改革に対応するため、県立高校・中学校のICT環境を整備する。				
[事業内容]	① 普通教室へのプロジェクター等の整備 ② 活用支援 ③ プロジェクター用教材の作成・共有の推進				
[決算額] (単位：千円)		決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	①	145,160	103,232		41,928
	②	6,769	5,000		1,769
	計	151,929	108,232		43,697
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	ICT機器整備学校数	14	14	
	成果 指標	ICT用教材数	250	254	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・約8割の教員が授業でプロジェクターを活用しており、5教科については約4割のコマでプロジェクターを活用している。 ・自主研究事業で29グループがプロジェクターを活用した授業教材の研究を実施した。 				

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(2) 次世代につなぐ美しい県立学校リノベーション事業				教育政策課	
[事業目的]	美しい学び舎を次世代につなぐため、大規模改修工事の実施により、施設の長寿命化を進めるとともに、時代に即した学習環境を備える学校を整備する。				
[事業内容]	・建築後35年以上経過した県立学校施設を対象に、外壁や内装、各種設備など施設全体を改修				
[決算額] (単位：千円)		決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
		800,246	82,129	719,000	△883
[事業の目標 および効果]	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校4棟の大規模改修工事を実施した。 ・高等学校7棟、特別支援学校2棟について、設計を実施した。 				
[事業評価]	大規模改修工事を実施し、長寿命化を進めるとともに、時代に即した学習環境を備える学校を整備した。				

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(3) 新たな部活動指導体制推進事業				教職員課
[事業目的]	教員の負担軽減を図るため、外部人材を活用した部活動指導体制への支援を実施する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・教員に代わって単独で部活動の指導や引率ができる部活動指導員等を中学校、高等学校に配置 ・部活動休養日の拡大や共同管理体制の導入を推進し、部活動指導を改善 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	36,263	8,899		27,364
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	部活動指導員の配置校数	101 校	63 校
	成果 指標	平日の休養日設定校数	101 校	101 校
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・退職教員等の部活動指導員を中学校 43 校、高等学校 20 校に配置し、教員の負担軽減および部活動指導の改善を図ることができた。 ・今後、外部人材の増員により、部活動指導体制への支援を強化していく。 			

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(4) 教員自主研究活動支援事業				教職員課	
[事業目的]	今後 10 年間で約 4 割の教員が退職する中、若手教員の育成を含む教員の授業力向上は急務であるため、教員の自主的な研究・研修活動を支援し、その成果を県内教員が共有することにより、指導力向上を図る。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ①若手教員研究グループの支援 ②小・中・高校教員研究会の教科部会への支援 ③授業実践研究への支援 ④出版活動への支援 ⑤教職大学院派遣教員への支援 				
[決算額] (単位：千円)		決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	①	7,712		7,712	
	②	4,860		4,860	
	③	1,954		1,954	
	④	686		686	
	⑤	1,833		1,833	
	計	17,045		17,045	
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績	
	活動 指標	研究等成果 申請件数	149 件	150 件	
	成果 指標	研究等成果 報告件数	149 件	147 件	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・若手教員 100 グループ、小・中・高校教員研究会 20 グループなど、134 グループの自主的な研究グループの活動を支援した。 ・教職大学院へ 13 人の教員を派遣した。 				

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(5) ふるさと教育推進事業				高校教育課
[事業目的]	中高生に対し福井の先人の生き方等を学ぶ「ふるさと教育」を進め、県民としての誇りを持ち、本県の魅力を発信できる人材を育成する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・全中学、高校生に教材「ふるさと福井の先人 100 人」を配布し、道徳やホームルームの時間に活用 ・高校 1 年生に副教材「私のしあわせライフプラン」を配布し、家庭科授業で活用 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	3,250		18	3,232
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	教材配布数	16,000 冊	16,000 冊
	成果 指標	—	—	—
[事業評価]	福井の先人について話し合いや発表を行い、理解を深めることにより、本県の魅力を発信できる人材の育成が図られている。			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(6) ⑧地域との協働による高等学校教育改革推進事業				高校教育課
[事業目的]	県立高校が自治体、高等教育機関、産業界等と協働して、地域の課題を発見・解決する取組を推進することで、将来地域を支えるリーダーとなる人材を育成するとともに、地域振興の核としての高校の機能強化を図る。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体と協働し、地域資源を発信するデジタルパンフレット等を作成 ・短期留学生の受け入れや海外研修および観光ボランティア等の地域活性化策を実施 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	6,104	6,104		
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	地域貢献活動のための協議会開催数	4 回	18 回
	成果 指標	地域貢献活動回数	9 回	9 回
[事業評価]	地域団体と協働した活動や海外交流の実施により、高校生による地域振興や高校の機能強化が図られている。			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(7) 高校生学力向上推進事業 高校教育課				
[事業目的]	生徒の進学希望を実現するため、教員の受験指導力や学校の進学指導体制を強化する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試制度の変更に対応するための教員研修・生徒向け講演会の開催 ・高校入学時に生徒・保護者向け進学説明会を開催 ・生徒の学習意欲や学習状況を把握するための調査を実施 ・県内既卒生対象の学習支援体制を整備 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	34,321	485	7,444	26,392
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	大学進学サポート センター登録者数	55人	78人
	成果 指標	難関10大学合格者 (県立・現役)	110人	130人
[事業評価]	生徒の学力向上や進路指導の充実に向けた活動により、より多くの生徒の進路志望の実現が図られている。			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(8) 特別支援学校就労応援事業 高校教育課				
[事業目的]	特別な支援を必要とする生徒が行う職場実習でのサポートを充実し、地元企業への就労を促進する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ジョブコーチを配置し、生徒の職場実習の支援および求人開拓を強化 ・作業学習時の技術指導や職場実習時の受入れを行う就労サポーター企業を認定 ・生徒が作業学習等で培った力を認定する「特別支援学校技能検定」を実施 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	8,392	2,630	817	4,945
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	企業実習サポート 実施生徒数	75人	89人
	成果 指標	就職希望生徒の 就職内定率	85%	86.4%
[事業評価]	学校ジョブコーチの配置等による就労支援の充実により、特別支援学校の生徒の技能向上や就労の促進が図られている。			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(9) 地域と進める体験推進事業				義務教育課
[事業目的]	児童生徒が地域の人々とともに、自ら企画・提案した体験学習を実施し、ふるさと福井に誇りや愛着を持つ人材を育成する。			
[事業内容]	小中学校で「地域コーディネーター」を委嘱し、児童生徒が「地域コーディネーター」や地域の人々とともにやる体験学習やボランティア活動を支援 (1校 20万円を上限 県1/2、市町1/2)			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	21,752			21,752
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	地域コーディネーターを配置した学校数	226校	226校
	成果 指標	地域参画の体験活動を実施した学校数	226校	226校
[事業評価]	県内すべての小中学校で地域コーディネーターを委嘱し、体験活動やボランティア活動の支援を行い、児童生徒の体験活動などの充実を図った。			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(10) スクールカウンセラー配置事業				義務教育課
[事業目的]	心理の専門的な知識を持つスクールカウンセラーを配置し、いじめ、不登校、暴力行為等の問題行動の未然防止や早期発見、早期解決を図る。			
[事業内容]	・教育総合研究所および小中学校にスクールカウンセラー92名を配置 児童生徒等へのカウンセリング、教職員・保護者への助言等を実施 事案に対する学校内関係・支援チームの構築・支援			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	119,029	39,676		79,353
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	相談延べ件数	—	32,662件
	成果 指標	1,000人当たりの不登校児童生徒数	—	11.6人 国公立小中
[事業評価]	相談内容が複雑な案件が増加しており、今後もスクールカウンセラーの増員や研修会の充実など、教育相談体制の強化を図っていく。			

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(11) スクールソーシャルワーカー配置事業				義務教育課	
[事業目的]	社会福祉等の専門的な知識を持つスクールソーシャルワーカーを配置し、家庭環境、不登校、貧困、児童虐待等の課題を抱える児童生徒の支援、健全育成を図るため、関係機関と連携し、支援を行う。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・教育総合研究所および嶺南教育事務所、市町に対し、スクールソーシャルワーカー26名を配置 ・問題を抱える児童生徒に対する家庭訪問を行い、必要に応じて、児童相談所等の福祉関係機関や警察など関係機関と連携し、家庭環境の改善を図る。 				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	26,134		8,711		17,423
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	支援延べ件数	—	514件	
	成果 指標	1,000人当 りの不登校児 童生徒数	—	11.6人	国公立小中
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所や警察等の関係機関と連携し、児童生徒を取り巻く環境の問題解決を図った。 ・家庭環境に問題を抱える児童生徒が増加しており、今後もスクールソーシャルワーカーの増員や資質向上研修を行うとともに、関係機関と連携し、家庭環境の改善を図っていく。 				

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(12) 吹奏楽活動推進事業				義務教育課	
[事業目的]	中・高校生の吹奏楽活動のさらなる充実を図るため、県外プロ指揮者等による技術指導や大型楽器の整備など、吹奏楽部の活動を支援する。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・プロオーケストラ指揮者などによる指導教員研修会を実施 ・高校生と中学生との合同練習会・演奏会を実施 ・大型楽器の購入を支援 				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	33,005				33,005
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	中高合同練習 開催数	4回	11回	
	成果 指標	全国大会入賞 校数	1校	1校	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・高校（7校）・中学校（19校）を推進校に指定し、大型楽器の整備や高校生と中学生との合同練習会等を実施し、技術向上を図った。 ・推進校以外の学校においても、県内演奏家等の地域人材を派遣し、指導者や生徒の技術向上を図った。 				

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(13) 芸術教育推進事業				義務教育課	
[事業目的]	音楽や美術など芸術面における体験活動を行い、児童生徒の感性や表現力の向上を図る。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生および高校生の弦楽奏者の育成 ・小学校での童謡、唱歌の活用 ・日本画を活用した美術教育の推進 				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	6,704			1,000	5,704
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	弦楽器講師 派遣回数	300回	265回	
	成果 指標	弦楽器奏者数	220人	220人	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高合わせて15校を弦楽器推進校に指定し、基礎的な演奏技術の習得・向上を図るとともに、校外での発表や合同演奏の機会を設けた。 ・全小中学校および高校で水墨画や日本画を描く授業を行い、児童生徒の技能と表現力の向上を図った。 				

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(14) 外国人児童生徒等支援事業				義務教育課	
[事業目的]	日本語指導が必要な児童生徒に対する支援体制を強化し、外国人児童生徒の教育の充実を図る。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人児童生徒等が在籍する小中学校に日本語指導員を配置 ・外国人児童生徒やその保護者との会話に必要な翻訳機等の支援 				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	8,398		4,199		4,199
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	連絡協議会の開催	3回	3回	
	成果 指標	日本語指導員の配 置数	8人	7人	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導員を配置することで、外国人児童生徒の教育の充実を図った。 ・翻訳機などの整備により、外国人児童生徒やその保護者への対応の円滑化を図った。 				

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(15)「白川文字学」普及・研究促進事業				
生涯学習・文化財課				
[事業目的]	故白川静博士が確立した「白川文字学」を活用した本県独自の漢字教育を研究し、学校教育等で実践するとともに、その指導方法を県内外に広げ、普及を図る。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導力および児童生徒の漢字力向上 児童用副読本を全小学校に配付し、国語科の授業で白川文字学を活かした漢字学習を実施 ・白川文字学の普及活動 「第7回白川静漢字教育賞」、「白川文字学ゼミ公開講座」、「白川文字学こども漢字教室」の開催、「出前講座」の実施、全国の漢字教育団体との交流 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	5,875		100	5,775
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	出前講座の開催数	30 回	44 回
	成果 指標	漢字学習講座等への参加者数	3,000 人	3,061 人
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・白川文字学を活かした漢字教育は、授業時数を半分程度にして実施したが、出前講座においては、児童館や放課後児童クラブから新たな申し込みがあり、参加者数は3割強増加した。 ・今後も幅広い世代に白川文字学を学ぶ場を提供していく。 			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(16)文化財指定促進事業				
生涯学習・文化財課				
[事業目的]	県民の財産である文化財を保存し、学校教育や観光への活用を図るため、国指定等に向けた調査を推進する。			
[事業内容]	・建造物、民俗、古文書等の調査			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	6,130			6,130
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	現地調査件数	27 件	28 件
	成果 指標	文化財指定件数	12 件	1 件
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・「永平寺 19 棟（永平寺町）」が国重要文化財に指定された。 ・「大音家文書（若狭町）」が国重要文化財の指定について、「青木蘭麿堂（福井市）」、「信洋舎製紙所（越前市）」など 16 件が国登録有形文化財の登録について、文化審議会から文部科学大臣に答申された。 			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(17) ㊦ 全国高等学校総合体育大会開催準備事業				保健体育課
[事業目的]	3年度に本県を中心に北信越ブロックで開催する全国高校総体に向け、実行委員会を設置し、開催準備を進める。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・福井県実行委員会の設立 ・福井県開催基本構想、専門部会における業務運営の基本方針の決定 ・県内高校生による地域での広報活動の実施 等 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	12,479			12,479
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	—	—	—
	成果 指標	令和3年度高 校総体の開催	—	—
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・元年10月に福井県実行委員会を設立し、開催基本構想等を決定するとともに、総合開会式や種目別大会運営、広報報道、高校生活動、保健医療、輸送交通、警備防災など各専門部会を立ち上げ、それぞれの業務運営の基本方針を定めた。 ・県内高校生による地域での広報活動等、大会開催に向けた機運醸成を図った。 ・2年度は、総合開会式の開催内容や競技ごとの運営体制等の検討を進める。 			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(18) 競技力向上対策事業				保健体育課
[事業目的]	競技力向上対策を実施し、国民体育大会をはじめスポーツの全国大会において本県選手が優秀な成績を収めることで、本県のスポーツの普及・振興を図る。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ○有望選手の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生向け測定会・競技体験会の開催、県内強豪高校で競技力向上に励む選手への下宿費支援（補助事業者：県スポーツ協会、補助率：定額） ○選手の育成・強化 <ul style="list-style-type: none"> ・県外遠征等支援（補助事業者：県スポーツ協会・高体連・中体連等、補助率：定額） ・「チームふくい」に県外の優秀な指導者（スーパーアドバイザー）を配置 ○競技環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・地域に根差した新たなお家芸競技を育成（補助事業者：市町、補助率：1/2） ・国体クラブチームの自立を支援（補助事業者：競技団体、補助率：定額） ・スポーツ医・科学の面からの選手サポート 等 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	749,016		51	748,965
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	選手確保（スポジョブふくい）	20人	30人
	成果 指標	国体順位	10位台	10位
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・本県選手が各種大会において活躍することで、県民に夢と希望を与え、スポーツの普及・振興にも寄与している。 ・今後も福井国体での選手強化の過程で得た有形・無形の「経験、人材、ノウハウ」をレガシーとして継承・発展させ、選手の発掘・育成・強化や指導体制の充実に取り組んでいく。 			

I 学びを伸ばす（人材力）						
2 ふくいの産業・社会を支える人づくり						
(1) 高校生の大学・企業訪問事業 高校教育課						
[事業目的]	福井の職業および企業の魅力について学ぶことで、県外大学などに進学した後、県内に戻って働く若者を増やす。					
[事業内容]	普通科系高校の1年生を対象に、夏休みの期間を活用して企業訪問を実施					
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫		その他特定財源	一般財源
	1,688					1,688
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績		
	活動 指標	参加生徒数	800人	717人		
	成果 指標	—	—	—	定量的に成果を把握することは困難	
[事業評価]	ふるさと福井の職業や企業について学ぶとともに、県外の大学から福井に戻って就職した若手社員と意見交換を行うことにより、県内企業への関心を高めることができた。					

I 学びを伸ばす（人材力）						
2 ふくいの産業・社会を支える人づくり						
(2) 協働型産業人材育成プロジェクト事業 高校教育課						
[事業目的]	次世代の福井の産業を担う職業人の育成や職業系高校の特色強化を図るため、職業系高校において地元産業界等と協働した実践的な学習活動を実施する。					
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> 企業や大学と協働し、次代の産業人材像を検討するとともに、各校の取組に対する指導・助言を受ける 県内企業と職業系高校が連携し、特色あるプロジェクト活動を実施 					
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫		その他特定財源	一般財源
	4,345					4,345
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績		
	活動 指標	プロジェクト実施校	13校	13校		
	成果 指標	職業系高校生徒の県内 就業率	92%	90.9%		
[事業評価]	地元企業や地域と職業系高校が連携することにより、職業系高校の魅力発信が図られている。					

I 学びを伸ばす（人材力）				
2 ふくいの産業・社会を支える人づくり				
(3) 福井フューチャーマイスター事業				高校教育課
[事業目的]	県内職業系高校生の資格取得等に対する意欲向上を図り、地元企業に就職して活躍するためのスキルアップを促進するため、高校生の専門資格取得を支援する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の資格取得や企業実習等の実績に基づき、認定を行う「福井フューチャーマイスター制度」を実施 専門資格の取得を支援（補助率 1/2【難関資格は 2/3】） 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	9,305	214		9,091
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	専門資格取得支援者数	2,000 人	2,182 人
	成果 指標	福井フューチャーマイスター認定者割合	86%	87%
[事業評価]	地元企業の即戦力となる人材を育成するため、職業系高校生の資格取得を支援するとともに、福井フューチャーマイスターとして認定することにより、スキルアップが図られている。			

その他				
(1) こども歴史文化館展示事業				生涯学習・文化財課
[事業目的]	福井ゆかりの人物（先人・達人）の生き方や業績等を展示や講座、出前教室等により紹介し、郷土の歴史文化の理解を深め、福井に誇りをもった子どもを育てる。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> 普及事業…各種イベント、出前教室等の実施 発掘事業（調査研究）…未開拓の人物情報の調査研究 資料収集事業…実物資料の収集等 特集事業…企画展の開催 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	16,377		53	16,324
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	企画展開催回数	3 回	3 回
	成果 指標	利用者数	60,000 人	42,227 人
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> 幕末・明治期に活躍した佐々木長淳や岡倉天心など、福井ゆかりの先人にスポットを当てた特別展を開催した。 新型コロナウイルスの感染拡大防止による休館等により、利用者数が減少したが、今後は企画をより充実させ、利用促進を図っていく。 			

その他		生涯学習・文化財課			
(2) ふるさと文学館事業					
[事業目的]	ふるさと文学館において、福井ゆかりの作家や作品の魅力を伝える展示等を実施するほか、若者の創作活動を応援し、文学に親しむ機会を増やす。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展の開催 ・若い世代の創作活動を支援する文学ゼミや文学カフェ等の開催 				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	27,769		70	27,699	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	企画展開催回数	3回	3回	
	成果 指標	入館者数	65,000人	70,304人	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・「生誕100年水上勉」展、「文学の食卓」展の企画展などを開催し、来館者数が1割強増加した。 ・人気声優による「朗読会&トークショー」やストーリーやキャラクターを作るワークショップを取り入れた小説創作講座「ジュニア文学カフェ」を開催するなど、若い世代の文学への興味関心を高めた。 				

VI 有識者からの意見

○ 北陸大学経済経営学部 客員教授 藤岡 慎二

教育分野において混迷を感じる1年であった。特に大学入試改革における英語の外部試験導入や4技能試験、国語や数学における記述式の設問などの見送りなど、現場の先生方が多くの時間と労力をかけた改革がほぼ瞬時に見送りになる事態に直面した。高大接続改革において学力の3要素が評価される方向性に変わりはないが、高校における教育現場や大学は混乱したであろう。令和2年度7月現在においても、コロナ禍も含め大学入試については混迷を極めており、大学は独自の対応に迫られている。このような状況でも福井県は引き続き、先見の明を持ち、教育政策を立案し、実現させている。関係者の方々のこれまでにご尽力に敬意を表したい。

平成27年度に策定された「福井県教育振興基本計画」は実施5年目に入った。本計画における10の基本方針に基づき、施策の方向性や内容、教育委員会や各種審議会、または現場の教員の方々の活発な活動状況が本報告書に記されている。昨今の教育分野における混迷する状況も含め、今後の変化に対応すべく、短期・中期・長期的な対応策を考え施策化している。教育委員会のみならず、各現場の関係者、教員の方々の弛まぬ努力が滲み出る報告書となっており、尊敬の念を示したい。

昨年度は

- ① 教員の働き方改革
- ② 求められる教育観・学力観の変化への対応
- ③ 地域を担う人材の育成

について、福井県の施策に関する見解を述べてきた。昨年度の施策は今年度も継続して取り組まれている。

今年度は筆者が考えている教育現場における以下の課題を3つ挙げ、昨年度とは異なる観点で福井県の施策が如何に対応しているかについて述べたい。

① 地域コーディネーターによる地域連携

現在、学習指導要領における「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、地域と学校の協働が課題になっている。

“これからの教育課程には、社会の変化に目を向け、教育が普遍的に目指す根幹を堅持しつつ、社会の変化を柔軟に受け止めていく「社会に開かれた教育課程」としての役割が期待されている。”とある。

このような「社会に開かれた教育課程」としては、次の点が重要となる。「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（中教審答申 平成28年12月21日）」によれば、

- “ (1) 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- (2) これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育

課程において明確化し育んでいくこと。

- (3) 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。 “

など、以上3点が重要だとされている。



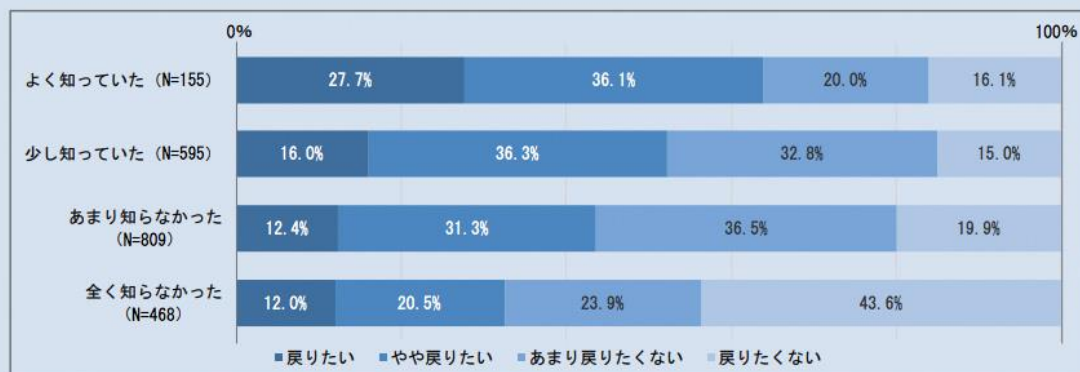
福井県では、「地域と進める体験推進事業」において、地域人材コーディネーター体制を整え、児童・生徒が自ら企画・提案する体験授業を実施したことは特筆すべき事業である。小中学校 226 校において、地域コーディネーターを委嘱し、活動を実施している事例は他の都道府県ではあまり見られず、福井県の先進性を示す事業であると評価できる。また、ふるさと先生による特別授業や、「福井ふるさと教育フェスタ」、小中学校での地域と進める体験事業の取り組みをまとめて県内全小学校や図書館にリーフレットとして発行・発信している事業は「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた啓蒙活動となっていると評価できる。

② 福井で学び、福井で活かす人材の育成

内閣府による第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、地方への移住・定着の推進施策として、若者の修学・就業による地方への定着の推進への初・中・高等教育での施策が述べられている。特に初等・中等教育においては、“出身市町村へ親しみを持つ者、高校時代までの間に地元企業を知っていた者は、将来的に出身市町村へのUターンを希望する割合が高い傾向にあるなど、自らの地域を知ることが、将来的なUターン、そして、地域の将来を支える人材の確保につながる可能性がある。小学校・中学校・高等学校では、関係する各教科等において 地域に関する内容が実施されているほか、総合的な学習の時間においても、「地域の人々の暮らし」や「伝統と文化」をテーマとした取組も行われている。このように、小学校・中学校・高等学校において、各教科等の学習を通じて、地域の産業や文化等への理解を深める「ふるさと教育」等により、地域に誇りを持つ人材の育成を推進する。（中略）若者が地方の

魅力を知る機会が少ないことにより、東京での進学、就職を選択していることも東京圏への一極集中の要因の1つであると考えられる。このため、中高生等の早い段階から職業意識の形成を図り、地元で暮らすことの魅力や地元企業の魅力等が若者に浸透するよう地域社会全体で取組を推進する。”と述べられている。

図 31 出身市町村へのUターン希望-高校時代までの地元企業の認知程度別-



(出典) 独立行政法人労働政策研究・研修機構「UIJターンの促進・支援と地方の活性化—若年期の地域移動に関する調査結果—」(2016年)

このような状況において、福井県では高校生の大学・企業訪問事業で普通科系高校1年生約720名が県内企業を訪問し、魅力を知る機会を県内企業63社の協力を得て実施された。また、協働型産業人材育成プロジェクト事業において県内企業と職業系高校が連携し、特色あるプロジェクト活動を実施した。更に、福井フューチャーマイスター事業により、職業系高校生の8割以上となる約1724名が資格取得を支援され、認定されている。自身の能力に自信を持ち、県内でも就職できる望みが生まれるだろう。都会の生活と比較して福井の魅力を学ぶ副教材を活用したライフプラン学習の開始も有効である。以上の施策に加え、先述の小中学校での地域コーディネーターの配置も、県内で生活する魅力を理解する機会となり、Uターンや定住が促され、就業人口の保持により、福井県における産業振興に貢献すると期待できる。

③ 人口減少時代における長期的な高等学校の方向性について

福井県内の中学3年生数は昭和63年度の1万3千名から令和2年度は7千名に減少する。令和15年度までに5千6百名まで減少する。県立高校の小規模化に伴い教員は現在の約千名から約8百名まで減少する。今後、小規模高校において開設科目数に制限が生じ、生徒の多様な学習要望や進路希望等への対応が困難となる。生徒数の減少は、学校行事や部活動等教育活動の活力の低下が懸念される。

更に、福井県内は公共交通機関の利便性が高いこと、全県一学区制へ移行したことから複数設置されている県立高校や私立高校に広い範囲の地域から多様な学習ニーズを求めて通学する可能性がある。令和2年度は私立高校授業料無償化の範囲拡大の影響等を受け、福井市内への進学が大幅に増加している。一方で、高校の小規模化による教育機能の縮小や統廃合は、各自治体の衰退を招く可能性を示唆する研究結果や事例が散見される。

福井県では、この状況において小規模校・職業系高校・SSH 指定高校に向けた福井県高等学校教育問題協議会が設置され、県立高校の魅力化に向けた目指すべき方向性が議論された。以上のような県による小規模公立高校の魅力化への施策立案は国内でも先進的な施策である。福井県の動きが全国の小規模公立高校における指針となるだろう。今後の動きに期待する。

今後、福井県がどのようなビジョンを描き、その実現に向けて教育施策・政策を紐付けるか、戦略的な施策が求められる。先見の明を持つ福井県の教育施策・政策が日本の模範となる日が待ち遠しい。

イノベーションは辺境（フロンティア）から始まる。地方を辺境とするのであれば、福井県はフロンティアとしてイノベーションが生まれると確信している。

○ 福井県高等学校PTA連合会 会長 齋藤 力

令和元年度が、平成27年に策定された「教育に関する大綱」と「教育振興基本計画」の対象期間の最終年度として、教育委員会の各種審議会等にて幅広い方々との意見交換がされ、次に繋げる最終年度としての成果が得られたのではないかと報告書の内容から伺えます。関係者の方々のご尽力に深く感謝いたします。

しかしながら、年度末近くに発生した新型コロナウイルスの影響により普段の生活がままならない状態が続き、社会全体が混乱する中、教育現場も敏速な対応を迫られ、その中で新たなものも見えて来たのではないかとも思います。令和2年度は、今後5年間の本県教育の基本方針を定める「教育に関する大綱」に基づき、新たに策定された「第3期福井県教育振興基本計画（令和2～6年度）」を進める初年度として、さらなる「ふるさと福井」的教育を次世代へ継承していただきたいと思っております。私たちPTAも積極的に活用し、未来へ繋げられるよう「ふくっていいよね!」となるように、広く地域にPRしていただきたいと思っております。

さて、この報告書の内容を踏まえ、個別に思うことを書かせていただきます。

- 1 平成27年に開学した高志中学校も本年度は最初に入學した生徒の卒業の年となります。この6年間の実績や課題などを保護者や社会に向けて公表し、広く今後の運営の糧にしていきたいと思っております。
- 2 働き方改革における教職員の实態が、まだ民間にくらべて遅れているように思われます。まだまだ教員の負担が大きく本来の子どもたちに向ける時間が足りないように思われます。外部への業務委託や教員の増員など業務改善の余地があるようなので積極的に行ってもらいたいと思っております。
- 3 パソコンやスマートフォンの普及などに伴い、SNSによるいじめや犯罪等に巻き込まれる可能性がこれから益々増えるように思われます。この点に関しては子ども達だけではなく、地域社会・保護者も一緒に考えていかないといけないと思っております。それぞれの立場での情報を共有し問題解決に繋げていく場を設けていただきたいと思っております。
- 4 本年度は今後の学校運営に伴い、丹南高校・武生工業高校・武生商業高校の募集を停止し、新たな武生商工高校の開学や武生高校探究進学科・鯖江高校探究科・敦賀高校文理進学科の募集開始などが行われました。また、本県の県立学校の運営の要となる高等学校教育問題協議会が設置され、「今後の県立高等学校の魅力化の方策について」答申がなされました。協議会では各方面の方々から意見を頂き、次への新たな一歩を踏み出したのではないのでしょうか。この答申をもとに運営し、よりよいものにしていただきたいと思っております。
- 5 新型コロナウイルスの収束が未だ見られない今、教育現場も敏速な対応が求められています。その中で、現場との情報の共有や伝達などを速やかに行い、混乱のないようお願いしたいと思います。また、受験や就職を控える学年の生徒へのフォローは特に慎重に且つ敏速にしていきたいと思っております。

以上、何点か思うことを書かせていただきましたが、やはり福井県教育振興基本計画にある「一人一人の個性が輝く、ふくい未来を担う人づくり～子どもたちの「夢と希望」「ふくい愛」を育む教育の推進～」を基本に、様々な施策をしていくことで郷土愛にあふれたふくいが創造されていくと思います。今後ともこの実現に向けて、有効な施策の実現を行っていただくことを宜しくお願いいたします。